

令和3年度 2年福祉保育コースの取り組み①（福祉科）

令和3年度県立高校等チャレンジプロジェクト「介護実習講座（子ども分野・障害分野・高齢分野・福祉用具）」では、昨年度に引き続き、以下の事業所にご協力、ご指導いただきました。

子ども分野

10月21日（木）3h

太田さくら認定こども園 鯉渕 愛先生（保育教諭）



「認定こども園」となった経緯や具体的な事業内容、認定こども園へのニーズが高まってきた背景、3歳児以上保育の無償化や保育教諭、保育体制（5交代、シフト制）など、これから学びを深めていく内容にもふれてくださりました。実際の乳幼児の写真を交え、「保育をして生活の自立を促す、年齢に合わせた教育活動を行う」保育教諭の仕事内容（リトミック、読み聞かせ、手洗い補助、お絵かき、外遊び、排泄補助、食事援助等）、年齢ごとの乳幼児の状況や指導案に基づく支援内容を多職種で連携して支援を行うこと学びました。3歳児からは生活時間帯が異なる保育園枠と幼稚園枠の園児が一緒に生活することになるとのお話は、幼稚園教諭、保育士の両方の知識や技術を必要とすることを認識する機会になりました。

障害分野

10月21日（木）1h

社会福祉法人 朋友会 石澤 陽一先生



事前に「障害のある方」へのイメージや「障害のある方」と接したことがあるか否かについて確認していただき、生徒の声を基に講座を展開してくださりました。「障害者総合支援法」のサービスのなかで同事業所が取り組まれている事業内容や具体的な支援内容、目指すサービスや職員の仕事内容や本音、利用者の方の状況や支援方法を学びました。生徒からは「障害者の方と関わることに少し怖さもあったけれど、よく話を聞いて、怖さというより、自分も勉強になることもとても多く、私もたくさんの関わりをもちたいと思った」「話を聞く前は、障害者の方は怖いという、勝手なイメージを持っていたが、講座後はイメージが変わった。障害者の方に会ってお話する機会があったら、ぜひ積極的に話してみたいと思った」との感想がありました。

高齢分野

10月28日（木）1h

介護老人保健施設くじらヶ丘 飯田 敦先生（支援相談員／介護支援専門員（ケアマネージャー））



介護の仕事や役割について、生徒と対話しながら、現場で起こり得る2つの事例を通して考え、3年生で本格的に学ぶ「介護過程」（選択科目）や多職種連携に繋がる内容を学びました。介護士としての本来の役割は、利用者の方、ご家族の「したい」「なりたい」という希望を汲み取り、できないことを補いつつ、できるように残存能力を活かした支援することであることを学びました。働く際には「何のために、何を目的に仕事をしているのか」を見失わず、「自分がやりがいを感じられること」を忘れないでほしいとメッセージをいただきました。生徒からは「自分（介護者）も主役になれる！」という言葉が印象に残った」との感想があり、介護の主役は利用者の方ですが「良い介護士がいてこそその介護である」との大事な視点を学ぶ貴重な機会になりました。

福祉用具

1月20日（木）1・3h 有限会社 愛ぶらす 皆川 奈津子先生（福祉用具専門相談員）

株式会社 日本ケアサプライ 川和田 雄大先生（福祉用具専門相談員）



介護保険における福祉用具貸与、購入、住宅改修サービス内容、福祉用具専門相談員の役割、2025年問題での役割について、資料やカタログを提供していただき、学びました。福祉用具専門相談員は、福祉用具に関するアドバイスを行う専門職であり、利用者様やご家族を支えるチームの一員であることを学びました。電動車いすの操作や走行体験、スライディングボードを使用したベッドから車いすへの移乗体験では、生徒と対話しながら、利用者の方の立場で考え、支援方法を分かりやすく丁寧にご指導いただきました。生徒からは「実際に用具を使うことで利用者側の気持ちを知ることができた」「初めて電動車いすに乗って非常に良い体験ができ良かった」「スライディングボードでベッドから車いすに移動するのが楽しかった」との感想がありました。

講師の先生方、昨年度に引き続き、ご指導ありがとうございました。